

(株)ソウメイテクノ様向け IPx7筐体 防水試験報告書

2015/10/1

製造部 板金課 野崎

1,はじめに

本防水試験は、以下目的・条件に従い実施したものである。

【目的】 (株)ソウメイテクノ様向けIPx7防水筐体の防滴試験を行う。

【実施日時】 2015年10月01日(木) 9時00分～15時00分

【実施場所】 有限会社双明通信機製作所

【試験者】 製造部板金課 川久保、野崎

営業部 金子、村上

製造部設計課 辻村

試験報告書作成者 製造部板金課 野崎

【試験筐体】 IPx7防水筐体(W*** x H*** x D***)

関連図番 1S773ST01-01

塗装済み組立品1台を試験した。

【適用規格】 JIS C 0920による防水試験IP*7に準拠

2、試験方法

試験方法を以下に記す。

タンクによる防水試験IP*7に準拠

深さ0.15～1mの一時的潜水状態での第二特性数字7 に対する試験

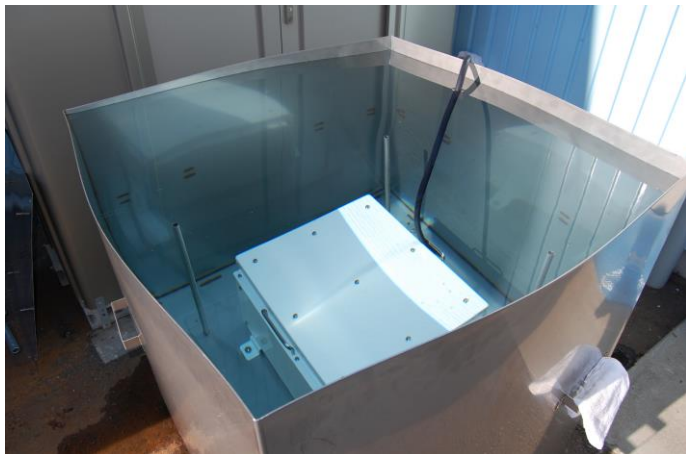
この試験では製造業者が定める使用状態(姿勢)で、次の条件によって試験する。

- a)高さが850mmに満たない被試験品(外郭)の場合は、最下端が水面から1mの位置とする。
- b)高さが850mm以上の被試験品(外郭)の場合は、最上端から水面までの距離は150mmとする。
- c)試験時間は、30分とする。
- d)水温は、被試験品(外郭)自身の温度と5℃以上の差があってはならない。
ただし、被試験品(外郭)を充電状態又は動作状態で試験する場合には、個別製品規格において条件を変更してもよい。



3、水没試験

水没試験は、前頁の内容に従い、底板に筐体を固定し全体を水没させ、約30分後に引き上げる方法で行った。



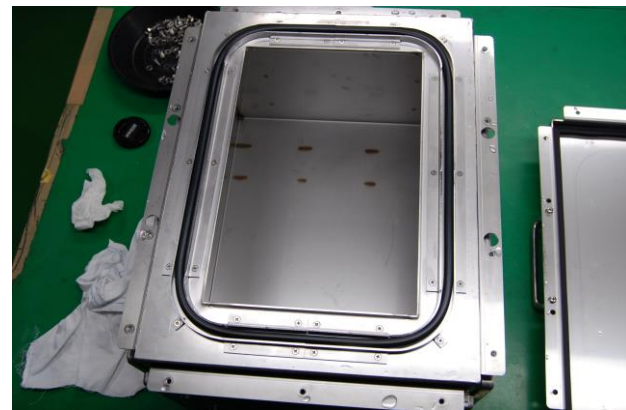
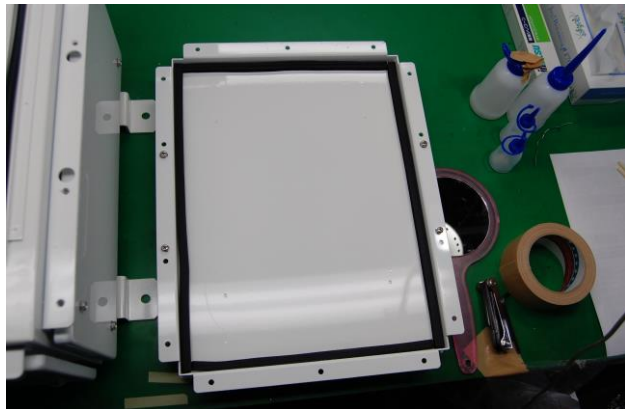
試験中の筐体の様子



4、筐体を解体しての流入確認

筐体の蓋を開け、パッキン部分、接合面周辺及び内部の浸水および水滴の付着について、確認を行った。蓋を開ける際に筐体内部への不用意な水滴の落下・付着を防ぐため複数人で確認を実施した。

結果、内部への浸水及び水滴の付着は確認されなかったため、防水性能に問題はないと判断し、防水試験を終了した。



試験結果確認時の様子

考察 適用規格 JIS C 0920

*7

水に浸しても影響がないように保護する。

既定の圧力及び時間で外郭を一時的に水中に沈めたとき、
有害な影響を生じる量の水の浸入があってはならない。

14.2.7

深さ**0.15**～**1**mの一時的潜水状態での第二特性数字**7**に対する試験

この試験では製造業者が定める使用状態(姿勢)で、次の条件によって試験する。

- a)高さが**850mm**に満たない被試験品(外郭)の場合は、最下端が水面から**1m**の位置とする。
- b)高さが**850mm**以上の被試験品(外郭)の場合は、最上端から水面までの距離は**150mm**とする。
- c)試験時間は、30分とする。
- d)水温は、被試験品(外郭)自身の温度と5℃以上の差があってはならない。
ただし、被試験品(外郭)を充電状態又は動作状態で試験する場合には、
個別製品規格において条件を変更してもよい。